

令和6年9月18日

浦添市議会議長 殿

総務委員会
委員長 又吉 謙一

総務委員会行財政視察報告書

令和6年8月7日から令和6年8月9日まで、委員会視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

- | | | | |
|---------|--|------------------------|--|
| 1 視察期間 | 令和6年8月7日（水）～令和6年8月9日（金） | | |
| 2 視察場所 | 北海道札幌市、北海道北広島市 | | |
| 3 視察項目 | 「スマートシティ」について
「ボールパーク構想推進事業（未整備地域の開発、整備計画）」
について | | |
| 4 視察参加者 | 委員長 又吉 謙一
委員 大城 翼
委員 濱崎 早人 | 副委員長 稲嶺 伸作
委員 田畑 翔吾 | |
| 5 調査内容 | 別紙のとおり | | |

視察日	令和6年8月8日(木) 午前9時00分～午前10時00分
視察先	北海道札幌市 人口 1,968,897人 (令和6年8月1日現在) 市面積 1,121.26km ² 議員定数 68人
視察市の概要	北海道・石狩平野の南西部に位置する札幌市は、明治2年(1869年)の開拓使設置以来、北海道開拓の拠点として発展し続け、大正11年(1922年)8月1日の市制施行以来、近隣町村との度重なる合併・編入によって、市域を拡大してきた。現在では人口190万人を超え(北海道の人口の約3割)、市町村では、横浜、大阪、名古屋に次いで4番目の人口規模となっている。新千歳空港から札幌間の移動には鉄道やバスなどが利用でき、JR新千歳空港駅からは快速列車により37分でJR札幌駅に到着する。
調査項目	「スマートシティ」について
調査理由	札幌市における新・さっぽろモデル事業は、札幌市の作成するデジタル田園都市国家構想交付金実施計画に基づき、札幌市と民間事業者等で構築する「札幌市スマートシティ推進協議会」が運営しており、厚別区もみじ台・青葉エリアを対象に、タブレット・スマホを通じて生活支援や健康増進、コミュニティ活性化などのサービスを提供する事業である。浦添市では、数年後に牧港補給地区の返還を控えており、その跡地の開発においては、ITの最先端技術を生かしたデジタルシティ(シリコンリーフ)のまちづくりを目指しており、札幌市における先進事例等を視察し、本市でのDXを活用したまちづくり・市民サービスの利便性の向上等に生かすことを目的とする。
調査内容	(1) 札幌市ICT活用戦略の概要について (2) デジタル田園都市国家構想における企画立案について (3) 新・さっぽろモデルの概要および現在の運用実績について
考察	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口190万人の政令指定都市・札幌市役所を訪問し、デジタル戦略推進局スマートシティ推進部デジタル企画課ご担当者から「札幌市ICT活用戦略について」ご説明頂く。 実証実験から実装に向けて着実に進めている。浦添市の取り組みに活用したい事業もあった。昨年視察した横浜市スマートシティ事業同様、産学官民の連携が重要だと改めて実感した。浦添市も都市OSを導入しており、札幌市が民間と共に開発したシステムを活用できるはずなので当局に提案したい。 ● 札幌市はICT(オープンデータ・ビッグデータ)の利活用による生活・経済・教育・行政の生産性・質の向上、新価値の創造をしスマートシティを目指す。官民の様々なオープンデータ、ビッグデータを活用するプラットフォームを構築、サービス提供やオープンデータ化において多様な主体が参画可能な環境を整備し、観光分野(外国人観光向け消費・周遊促進)、雪対策分野(プローブカーデータを活用したスマート除排雪・冬季路面情報・砂まき促進サービス)、健康分野(ポイントインセンティブによる健康行動促進)の実証事業を行う。人口減少社会において、誰もが安心して利便性を実感し、市民生活の質の向上につながる行政のデジタル改革、地域のデジタル改革に取り組んでいます。新さっぽろ周辺の住宅地でもあるもみじ台・青葉地域は市内で最も高齢化率が高い課題先進地域(各50%・47%)であり、住民とのワークショップ等で新さっぽろと連携し生活

支援や健康増進、コミュニティ活性化のサービスが必要で新さっぽろモデル事業を2024年2月に専用タブレット150名に無料貸与して新さっぽろモデルに参加して様々な便利サービスが受けられる。令和5年度のフェーズ1では①生活支援サービス（地域の情報のお届け）②健康増進サービス（日々の健康管理）③コミュニティ活性化サービス（屋内農園の運営）④周遊レコメンサービス（地域店舗のレコメン）⑤SDGs貢献サービス（フードロス商品の受け取り）令和6年度のフェーズ2では①生活支援サービス（オンライン診療）②健康増進サービス（体力測定による老化防止）③コミュニティ活性化サービス（つながるスマイルサービス・多世代との交流）高齢化に向け国保の赤字対策や独居老人、ひきこもりをなくしたり、フードロス商品を安く提供できる素晴らしいモデル事業である。本市でもスマートシティ実現に向け戦略推進に取り組んでいきたい。







視察日	令和6年8月8日（木） 午後2時00分～午後5時00分
視察先	北海道北広島市 人口 56,595人 （令和6年8月31日現在） 市面積 119.05 km ² 議員定数 22人
施設の概要	
<p>北広島市は、明治17年（1884年）に広島県人25戸103人が集団移住し開拓の鉞がおろされ、明治26年（1893年）には380戸1,200人余りの大きな集落になり、後に「広島村」と名付けられ現在の北広島市へと発展した。北広島市は、札幌市と新千歳空港の間に広がるなだらかな丘陵地帯にあり、豊かに息づく緑の環境、ゆとりの土地空間、整備された交通網など自然と都市機能が調和した街で、道央圏のなかで宅地開発や工業団地の造成、都市施設の整備が着実に進められ、平成8年（1996年）9月に市制を施行している。交通アクセスにおいては、JR千歳線北広島駅から快速電車で札幌まで16分、新千歳空港まで20分、自動車でも北海道内各地にアクセスしやすい位置にある。</p>	
調査項目	
「ボールパーク構想推進事業（未整備地域の開発、整備計画）」について	
調査理由	
<p>北広島市におけるボールパーク構想は、未整備公園をきっかけとした官民連携プロジェクトとしてボールパークを整備することで、北広島市のアイデンティティを高め、未来の担い手となる居住者や企業立地を促進しながら、持続的な都市経営と社会課題の解決を図る地方都市の再生モデルを実現することを図っていく事業である。浦添市では、数年後に牧港補給地区の返還を控えており、その跡地の開発においては、新規産業の拠点形成及び都市近郊海浜リゾートの形成を目指している。北広島市における先進事例等を視察し、牧港補給地区の返還後の跡地利用におけるまちづくりに生かすことを目的とする。</p>	
調査内容	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 当初の計画立案について (2) 民間企業誘致に至った経緯について (3) 施設整備の現況について (4) 今後のまちづくり構想について (5) 官民連携による取組事例について 	
考察	
<p>● 2015年10月、市は未整備となっていた総合運動公園予定地の活用のために、プロの2軍試合の誘致を念頭に総合運動公園の中に公式野球ができる施設規模の野球場を建設することの検討していました。北海道日本ハムファイターズとの意見交換を行ったことがきっかけとなり、野球を観戦するためだけの施設ではなく、球場を核としたまちボールパークを作りたいという球団の意向とスポーツコミュニティを掲げる企業理念を受け、新球場を核に賑わいや交流を創出するエリアとなるボールパークの整備を契機として地方創設を図ることが、市の目指す都市像の実現に大きく寄与すると考え、ボールパーク誘致を表明、ボールパークの施設整備は球団、その周辺の道路等のインフラ整備は市が役割を担いながら連携して進めて行き2023年3月に開業。2023年3月に北海道ボールパークFビレッジが開業し、新球場を核として商業施設・宿泊施設・マンション・認定こども園など様々な機能が集積した拠点づくりに取り組む北広島市。時代に合ったエリア整備と、近隣16市町村や各行政機関、民間事業者との広域連携体制でボールパーク構想の推進と北海道の価値魅力向上を目指しています。新球場エスコンフィールドHOKA IDOUは日本発の開閉式屋根の天然芝球場で、Fビレッジ内には食と農業の魅力や可能性を学ぶ農業学習施設、農園を利用した食育や球団と連携した保育を行う幼保連携型の認定こども園、グランピング施設など様々な施設が集積し相互に波及効果を生み出しています。又、北海道、球団と防災に関する覚書を締結し、球団ボールパークの中に防災備蓄倉庫を整備し、防災拠点としての役割を官民連携で担っています。The Ambitious City 一大志をいただくまちを参考にしながらブレずに前向きに官民連携して本市のキャンプキンザー跡地利用計画を進めて頂きたい。</p>	

- 予定にはなかったが時間に余裕があったため、建設から6年目の北広島市役所議場を見学させて頂く。特徴は、目線がフラットになっており、市民、議員、市長執行部、議長の距離が近く開かれた感覚を受ける設計になっている。
- 地価上昇率全国一の北広島市。「北海道ボールパークFビレッジ北広島市のまちづくり」について、北海道北広島市経済部ボールパーク連携推進室より説明を受ける。
昨年3月に供用開始した北海道日本ハム・ファイターズの本拠地「エスコン・フィールド」を中心に開発が進む。
4年ごとに1フェーズとして計画を進め、5フェーズ・20年先までを見据えてまちづくりを行う。2フェーズ以降はその時の状況を踏まえて計画を立てる。柔軟性を持たせ、なるべく若手を配置する未来志向の体制とのこと。
誘致の際には、市民の理解を得て迎え入れる意識醸成、産学官民の連携が重要だと改めて実感。他にも多くの参考事例を伺うことができ予定の90分があつという間。
説明して下さった柴さんを招いてまちづくりシンポジウムを行うなど、今後、浦添市に招きたい。キャンプキンザー返還跡地開発に必ず活かしたい。
- 説明を受けた後は「エスコンフィールド北海道」へ。
多くの親子連れ、観光客と一緒にファイターズガールの案内で球場内を視察。
天然芝のグラウンド、選手の座るベンチやダッグアウト、インタビュールーム、飲食スペース、ファイターズの歴史、壁面のファイターズ選手の肖像画、グッズ販売などファン作りへの仕掛けと情熱が体感できる。
試合がない遠征日やオフシーズン期間は、見学、イベント、飲食テナント営業を行い、収益を生み出して地域経済の活性化を図っている。
アメリカ・メジャーリーグのスタジアムに匹敵する一流の施設は地域振興、経済発展に貢献。
エスコンフィールドからボールパーク、そしてFビレッジへと環境整備が進み、希望溢れるまちづくりは北海道全体へ好影響をもたらしている。





